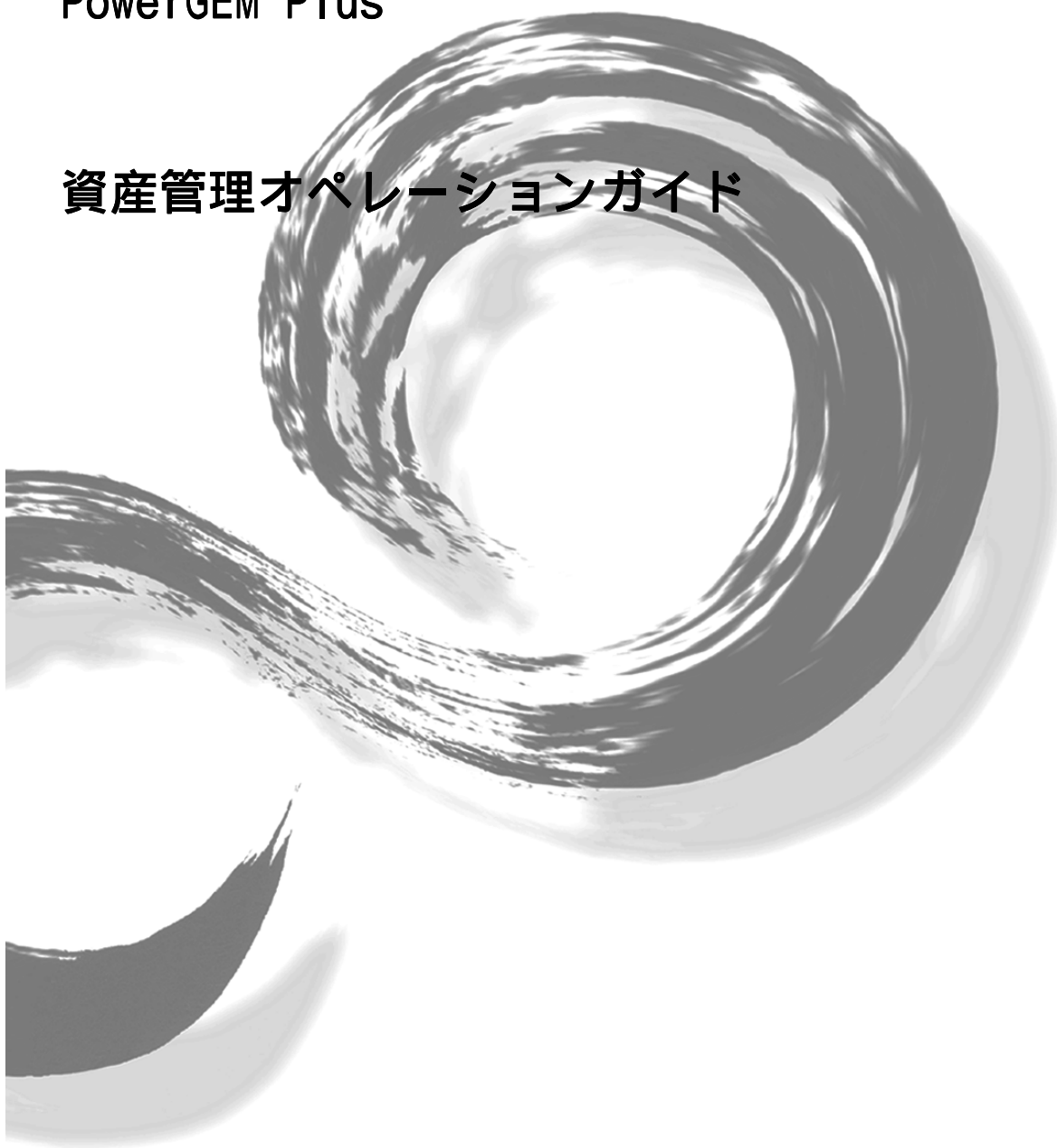


PowerGEM Plus

資産管理オペレーションガイド



---

## まえがき

本書は、PowerGEM Plusの“資産管理”を初めてご利用になる方を対象に、資産管理のオペレーションを説明した“PowerGEM Plus 資産管理 オペレーションガイド”です。

2002年6月

Microsoft、Windows、Visual BasicおよびVisual C++は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。UNIXは、X/Openカンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

IBMは、米国IBMの米国およびその他の国における登録商標です。

Excelは、米国Microsoft Corporationの製品です。

All Rights Reserved, Copyright (C) 富士通株式会社 2000,2002

---

# 本書の読み方

## 目的

本書『PowerGEM Plus 資産管理 オペレーションガイド』は、PowerGEM Plusの資産管理の利用手順に関する基本的な知識を提供することを目的としています。

## 本書の位置付け

本書は、以下の項目について説明したオペレーションガイドです

- 資産管理を適用した開発環境の概要
- 使用するコマンドの流れに沿った資産管理の利用手順

資産管理として提供している各コマンドの詳細やオプションについては、PowerGEM Plusのマニュアルおよび各コマンドのヘルプを参照してください。

## 対象読者

本書は、PowerGEM Plusの資産管理を、はじめてご利用になる方を対象としています。

## 内容

本書の構成と各章の記述内容を以下に示します。

[第1章 PowerGEM Plusの資産管理](#)：PowerGEMが提供する資産管理を適用した開発環境の概要について説明します。

[第2章 オペレーション手順](#)：資産管理の利用手順(適用手順)を使用するコマンドの流れに沿って説明します。

[付録A ファーストステップウィザード](#)：資産管理を利用できる環境をウィザード形式で構築する、ファーストステップウィザードについて説明します。

[用語集](#)：PowerGEM Plus 資産管理オペレーションガイドに出てくる用語を中心に説明した用語集です。オペレーションガイドご利用の際の参考としてください。

## 関連マニュアル

資産管理に関連する製品のマニュアルを以下に示します。

PowerGEM Plus 説明書

PowerGEM Plusの資産管理の考え方や仕組みなどの資産管理に関する詳細な知識を得ることができます。

PowerGEM Plus 資産管理オペレーションガイド  
本書です。

PowerGEM Plusを、ソフトウェア構成管理ツールであるPowerGEM Plus Administratorのクライアントとして利用する場合に必要な知識を得ることができます。

## 表記方法

本書では、以下の表記方法を使用しています。

### 表示

[.....]：ウィンドウ、メニューやコマンドなどの名称を示します。

例) [開発マネージャ]ウィンドウ、[マップ]コマンドなど

### マーク



**注意**

資産管理の使用に関して、注意が必要な情報であることを示します。



**ポイント**

資産管理を効率良く利用するためのポイントとなる情報を示します。



**参考**

参考となる情報を示します。



**ヒント**

資産管理を効率良く利用するためのヒントとなる情報を示します。



**例**

具体例を示します。

### 製品名称

本書では、使用する製品名称について、以下のように省略して表記(-->「省略表記名」)しています。

「Microsoft(R) Windows(R) operating system Version 3.1」-->

「Windows(R) 3.1」

「Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system」-->「Windows(R) 95」

「Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system」-->「Windows(R) 98」

「Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition」-->「Windows(R) Me」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0」および「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」-->「Windows NT(R)」または「Windows NT(R) 4.0」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition」-->「Windows NT(R)」または「Windows NT(R) 4.0 T.S.E」

---

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0」-->「Windows NT(R)」または「Windows NT(R) 4.0 E.E」

「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system」-->「Windows(R) 2000」または「Windows(R) 2000 Professional」

「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system」-->「Windows(R) 2000」または「Windows(R) 2000 Server」

「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system」-->「Windows(R) 2000」または「Windows(R) 2000 Advanced Server」

「Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system」-->「Windows(R) XP」または「Windows(R) XP Professional」

「Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system」-->「Windows(R) XP」または「Windows(R) XP Home Edition」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」および「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition」および「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0」-->「Windows NT(R) Server」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0」-->「Windows NT(R) Workstation」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」および「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system」および「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system」-->「Windows(R)サーバ」

「Windows(R) 95」,「Windows(R) 98」,「Windows(R) Me」,「Windows NT(R)」,「Windows(R) 2000」および「Windows(R) XP」-->「Windows(R)」

「Microsoft(R) Visual Basic(R) programming system」-->「Visual Basic(R)」

「Microsoft(R) Word 97」-->「Word97」

「Microsoft(R) Word 98」-->「Word98」

「Microsoft(R) Word 2000」-->「Word2000」

「Microsoft(R) Word Version 2002」-->「Word2002」

「Word97」,「Word98」,「Word2000」,「Word2002」-->「Word」

「Excel97」,「Excel2000」,「Excel2002」-->「Excel」

「OASYS/Win V2. 3」以降,「OASYS for Windows(R) V3.0」以降 -->「OASYS」

All Rights Reserved, Copyright (C) 富士通株式会社 2000,200

---

# 目次

第1章	PowerGEM Plusの資産管理	1
1.1	資産管理を適用した開発	2
1.2	資産管理のコマンド	4
第2章	オペレーション手順	6
2.1	オペレーションの概要	7
2.2	G E Mライブラリの作成	8
2.3	マップ	10
2.4	新規登録	12
2.5	チェックアウト	15
2.6	修正・コンパイルなどの開発作業	17
2.7	チェックイン	19
付録A	ファーストステップウィザード	22
A.1	ファーストステップウィザードを利用する	23

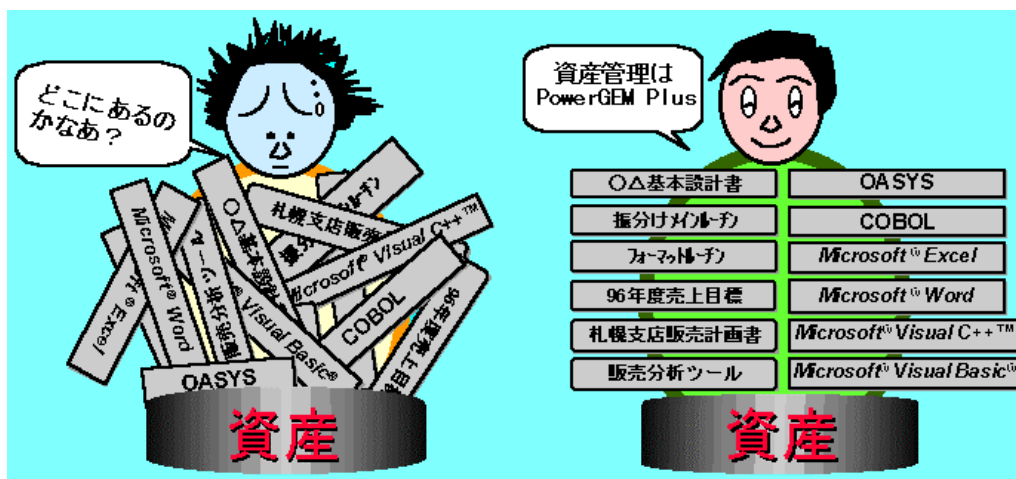
---

## 第1章 PowerGEM Plusの資産管理

---

PowerGEM Plusは、アプリケーション開発のための各種資産(ソースファイル、テキストファイル、バイナリファイル、コンポーネント等)をWindows(R)環境上で効率良く運用する"資産管理ツール"です。

図：資産管理のイメージ

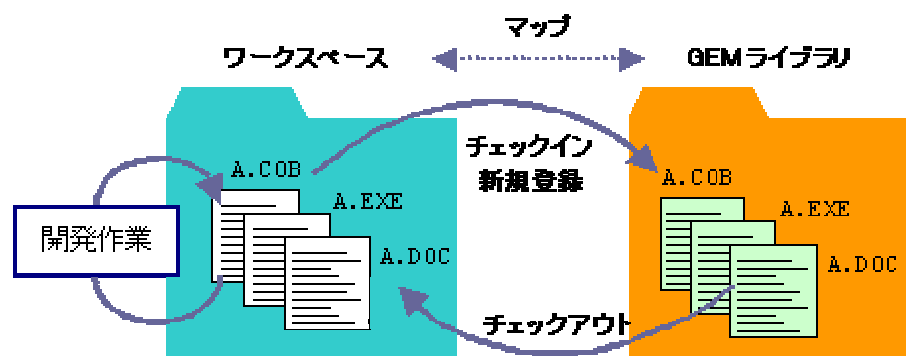


ここでは、PowerGEM Plusの資産管理を適用したアプリケーション開発の概要について説明します。なお、資産管理のオペレーションをお知りになりたい場合は、"[オペレーション手順](#)"を参照してください。

## 1.1 資産管理を適用した開発

PowerGEM Plusの資産管理を適用したアプリケーション開発の概要について説明します。

図：資産管理を適用したアプリケーション開発のイメージ



### 資産と開発作業

資産管理を適用したアプリケーション開発での"資産の管理"と"開発作業"について説明します。

#### 資産の管理

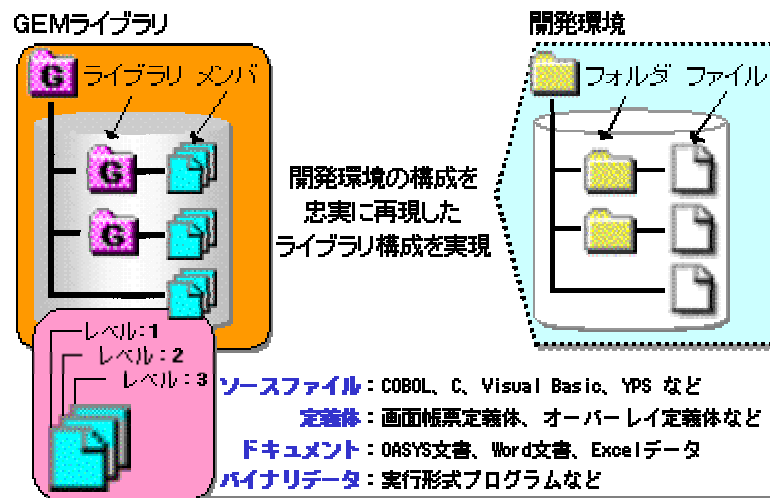
PowerGEM Plusは、各種資産を効率良く格納・管理するための資産格納庫(ライブラリ)として、**GEMライブラリ**を提供しています。資産管理では、このGEMライブラリを使用して資産を管理します。GEMライブラリで管理する資産に特別な制約はありません。GEMライブラリを使用することにより、アプリケーション開発の全般で作成・利用する各種資産を一括して集中的に管理することが可能になりました。

#### GEMライブラリとは

GEMライブラリは、世代管理機構とデータ圧縮機構を備えたライブラリです。



図：GEMライブラリの概要



GEMライブラリは、Windows(R)環境のファイルシステムと同じように、階層構造で作成することができます。このため、Windows(R)環境上の開発環境構成(フォルダ階層・ファイル構成)を変更することなく、開発環境に存在する各種資産を、GEMライブラリで管理することができます。

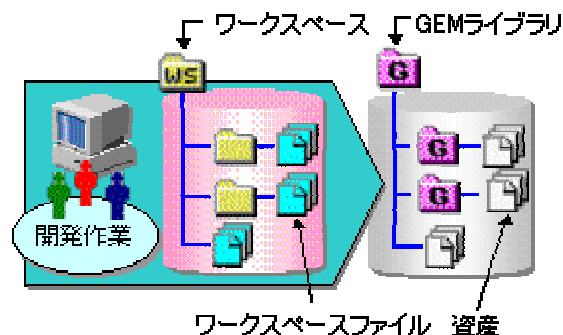
### 開発作業

資産の修正や翻訳などの一連のアプリケーション開発作業は、GEMライブラリに対応付けられている"ワークスペース"を利用して行います。資産管理を適用した開発では、このワークスペースを開発環境として位置付けることができます。

### ワークスペースとは

ワークスペースは、Windows(R)環境上のフォルダ(ファイルの集合体)です。このワークスペースは、Windows(R)のファイルシステムと同じように、階層構造を持つことができます。

図：ワークスペースの概要

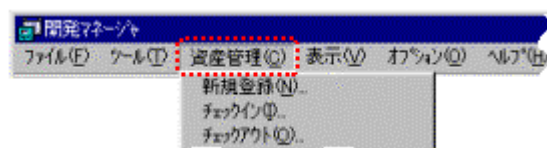


ワークスペースを構成するワークスペースファイルは、PowerGEM Plus以外の各種ツールからも、一般のファイルと同じようにアクセスすることができます。

## 1.2 資産管理のコマンド

開発作業で利用する資産管理のコマンドは、[開発マネージャ]ウィンドウのメニューバーの[資産管理]メニューに定義されています。

図：[資産管理]メニュー

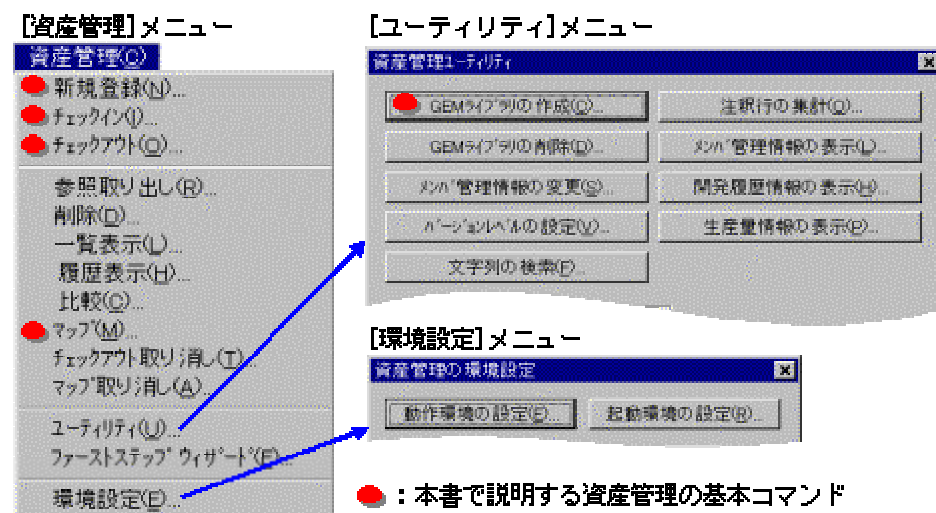


資産の操作を前提としたコマンド以外にも"履歴表示"、"開発履歴情報の表示"や"文字列の検索"などの保守作業を効果的に行うためのコマンドも定義されています。

### [資産管理]メニュー

[資産管理]メニューに定義されているコマンドを以下に示します。

図：[資産管理]メニューのコマンド



### 基本コマンドの概要

本書で説明している資産管理の"基本コマンド(資産を操作するためのコマンド)"の概要を以下に示します。

表：資産管理の基本コマンド

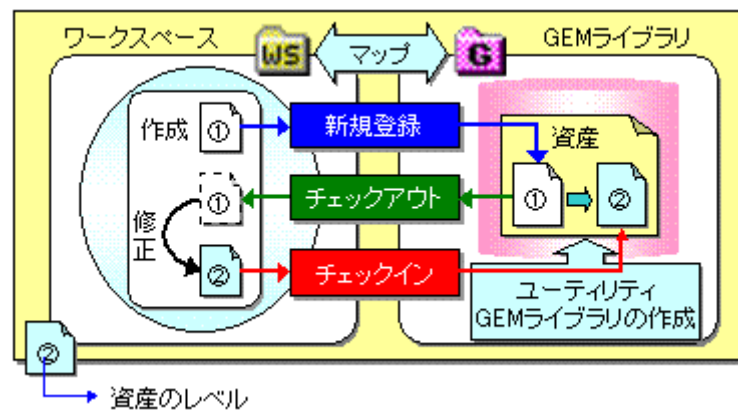
コマンド名	説明
<a href="#">GEMライブラリの作成</a>	Windows(R)環境上にGEMライブラリを作成します。
<a href="#">マップ</a>	Windows(R)環境上のフォルダをGEMライブラリに対応付けて、ワークスペースとして定義します。

コマンド名	説 明
<a href="#">新規登録</a>	ワークスペース上に作成した資産をGEMライブラリに登録します。
<a href="#">チェックアウト</a>	GEMライブラリに登録されている資産を、 <u>修正するために</u> ワークスペース上に取り出します。
<a href="#">チェックイン</a>	ワークスペース上で修正された資産の修正結果をGEMライブラリの資産に反映します。

### 基本コマンドと資産の流れ

以下に、資産管理の基本コマンドと操作する資産の対応関係を示します。

図：基本コマンドと資産の流れ

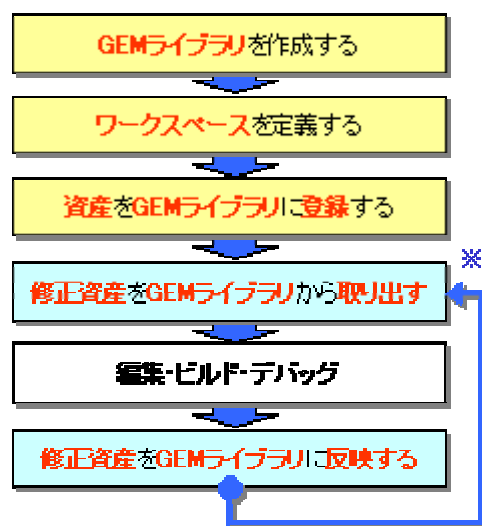


## 第2章 オペレーション手順

---

ここでは、資産管理の基本コマンドを使用した、開発作業での資産操作のオペレーションについて説明します。

図：資産の操作手順



※ 開発が完了するまで繰り返し行います



**注意** 開発作業で利用する資産が、Windows(R)環境上に作成済みであることを前提にしたオプションとなっています。

## 2.1 オペレーションの概要

資産操作のためのオペレーションの概要を以下に示します。オペレーションの詳細は、各オペレーションで説明します。

オペレーション	概 要	使用コマンド
<b>GEMライブラリ</b> を作成する	GEMライブラリを作成します。	GEMライブラリの作成
<b>ワークスペース</b> を定義する	Windows(R) 環境上の既存環境をワークスペースとして定義します。	マップ
<b>資産</b> を <b>GEMライブラリ</b> に登録する	既存環境上の資産をGEMライブラリに登録します。	新規登録
<b>修正資産</b> を <b>GEMライブラリ</b> から <b>取り出す</b>	修正する資産をワークスペースに取り出します。	チェックアウト
<b>編集・ビルド・デバッグ</b>	取り出した資産の編集やビルドなどの作業を行います。	-
<b>修正資産</b> を <b>GEMライブラリ</b> に <b>反映する</b>	修正した資産をGEMライブラリに反映します。	チェックイン

## 2.2 GEMライブラリの作成

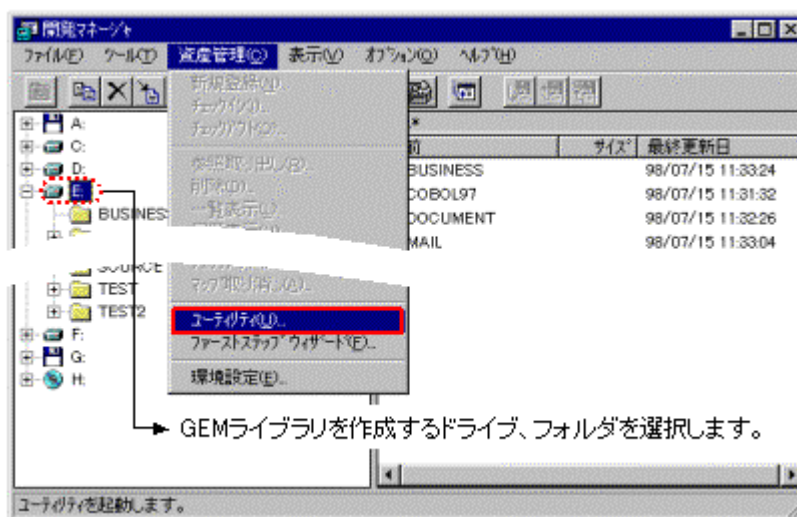
ソースファイルやドキュメントなどの資産を格納・管理するGEMライブラリを作成します。



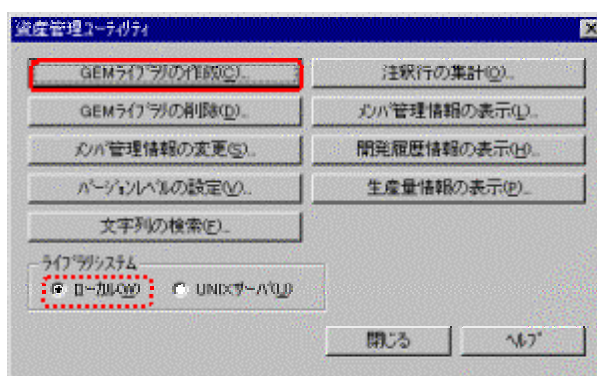
**ポイント** 作成先は

GEMライブラリは、Windows(R)環境だけでなく、UNIXサーバにも作成することができます。本書では、Windows(R)環境上にGEMライブラリを作成することを前提に説明します。

1. 開発マネージャの[資産管理]メニューの[ユーティリティ]コマンドを選択します。



2. 資産管理ユーティリティの[GEMライブラリの作成]ボタンをクリックします。



**ヒント** ライブラリシステムとは

GEMライブラリを作成する環境のことです。Windows(R)環境を示す"ローカル"になっていることを確認します。なお、UNIXサーバ連携を行っていない場合は、マスクされて選択できません。

3. 表示された[GEMライブラリの作成]ダイアログから、ライブラリ名(例: GEMLIB)を入力します。

[OK]ボタンをクリックするとGEMライブラリが作成されます。



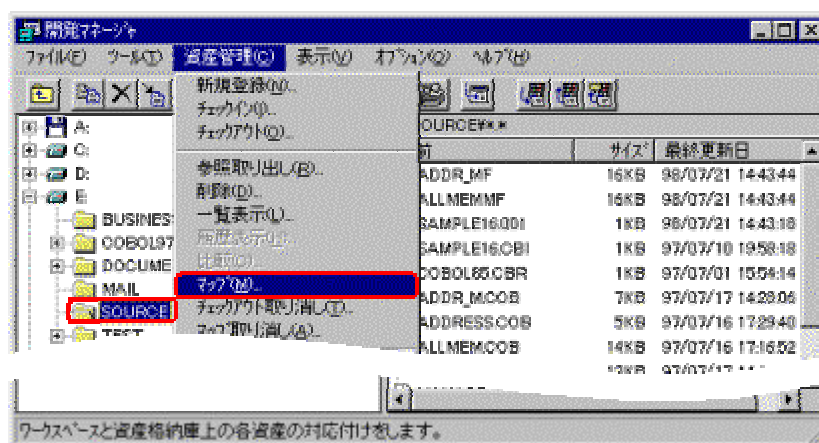
**例** ドライブ : E の直下にGEMライブラリ"GEMLIB"を作成する例です

以上でGEMライブラリの作成操作は終了です。

## 2.3 マップ

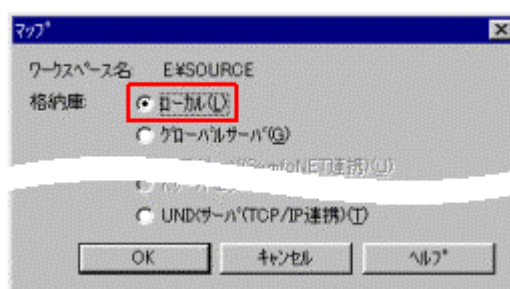
Windows(R)環境上のフォルダとGEMライブラリを対応付けます。この操作を"マップ"と称します。マップ操作が完了すると、対応付けられたフォルダが"ワークスペース"として定義されます。

1. [開発マネージャ]ウィンドウのツリービューから、ワークスペースとして定義するフォルダ(例: SOURCE)を選びます。[資産管理]メニューの[マップ]コマンドを選択します。



**注意** "サーバ連携"を設定していると

グローバルサーバやUNIXサーバなどとの"サーバ連携"を設定していると、GEMライブラリの配置先を確認する[マップ]ダイアログボックスが表示されます。

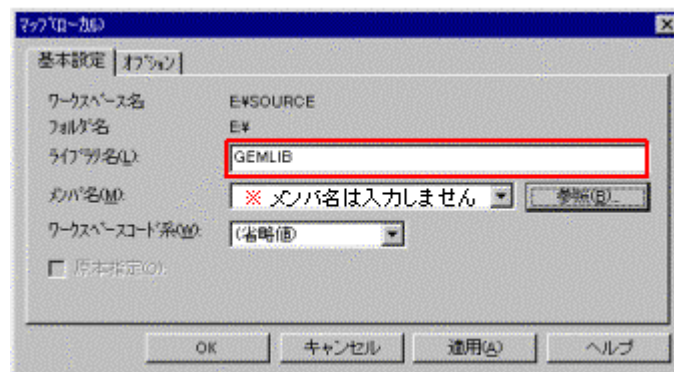



格納庫としてWindows(R)環境を示す"ローカル"を選択して[OK]ボタンをクリックします。

2. 表示された[マップ(ローカル)]ダイアログボックスから、"[GEMライブラリの作成](#)"で作成したGEMライブラリのライブラリ名(例: GEMLIB)を入力します。

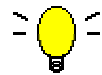


[OK]ボタンをクリックすると、マップ処理が行われます。



[参照]ボタンをクリックすると、[ライブラリ / メンバの参照]ダイアログが表示されます。このダイアログからGEMライブラリ(  )を選択できます。

以上でマップ操作は終了です。



**ヒント** 開発の初期段階では

開発の初期段階から資産管理を利用する場合は、定義したワークスペース上に直接資産を作成します。

## 2.4 新規登録

ワークスペースとして定義したフォルダ配下に作成されている既存のファイル(資産)を一括してGEMライブラリに登録します。



**注意** "実行時オプション指定"を確認してください

[新規登録]コマンドを実行する前に、[オプション]メニューの"実行時オプション指定"がチェックされていないことを確認してください。



1. [開発マネージャ]ウィンドウのツリービューでワークスペース(例：SOURCE)を選びます。[資産管理]メニューの[新規登録]コマンドを選択します。

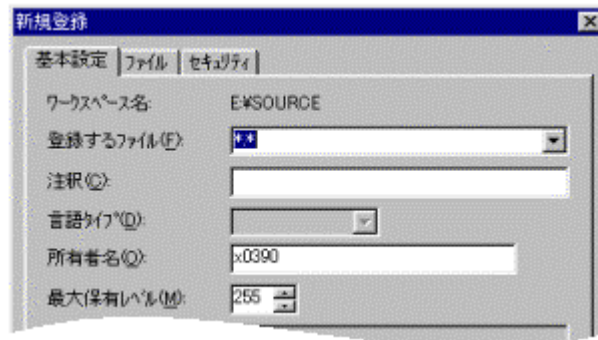
新規登録処理が開始されます。なお、ファイルを選択してファイル単位に[新規登録]コマンドを実行することもできます。





**参考** "実行時オプション指定"をチェックしていると

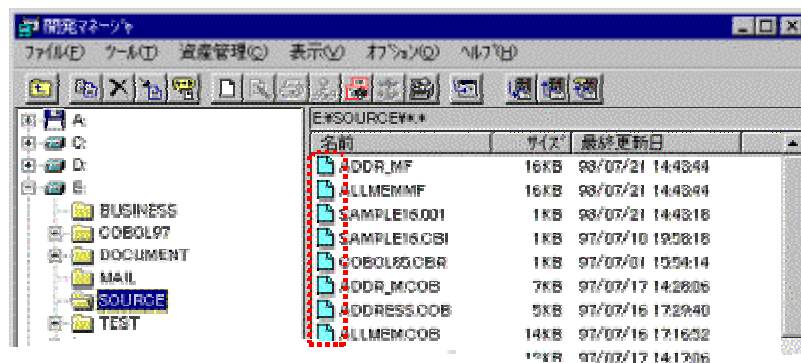
資産の所有者名や言語タイプなどを入力する、[新規登録]ダイアログが表示されます。

[OK]ボタンをクリックすると、新規登録操作が開始されます。



- ワークスペース配下の"すべてのファイル"がGEMライブラリに登録されます。

ファイルのアイコンが"  : 白色"から、GEMライブラリに登録されていることを示す"  : 水色"に変更されます。



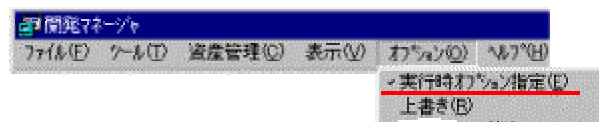
以上で新規登録操作は終了です。

なお、この新規登録操作は、随時行うことができます。例えば、開発作業の途中でも、新しく作成した資産を登録することができます。

#### 新規登録でエラー発生した場合は

以下に示す手順で、エラーが発生したファイルの再登録を行います。なお、具体的なエラーメッセージに対する対処は、[新規登録]コマンドのヘルプの"トラブルシューティング：新規登録"を参照してください。以下に、資産に設定する言語タイプを変更して再登録する場合の対処例を示します。

- 開発マネージャの[オプション]メニューの"実行時オプション指定"をチェックします。



- [開発マネージャ]ウィンドウのリストビューで登録できなかったファ

イルを選択し、[新規登録]コマンドを実行します。[新規登録]ダイアログボックスが表示されます。



言語タイプに"BINARY"を選択して[OKボタン]をクリックします。選択したファイルが、"バイナリ形式データ"の資産として新規登録されます。

## 2.5 チェックアウト

GEMライブラリに登録されている資産(ファイル)を修正するために、ファイルをワークスペース上に取り出します。この操作を"チェックアウト"と称します。ここでは、特定のファイルをチェックアウトする手順について説明します。

1. [開発マネージャ]ウィンドウのリストビューで、ワークスペースからチェックアウトするファイル(例：E:\SOURCE\ADDRESS.COB)を選びます。  
[資産管理]メニューの[チェックアウト]コマンドを選択します。




**参考** "実行時オプション指定"をチェックしていると

取り出すレベルなどを入力する、[チェックアウト]ダイアログボックスが表示されます。

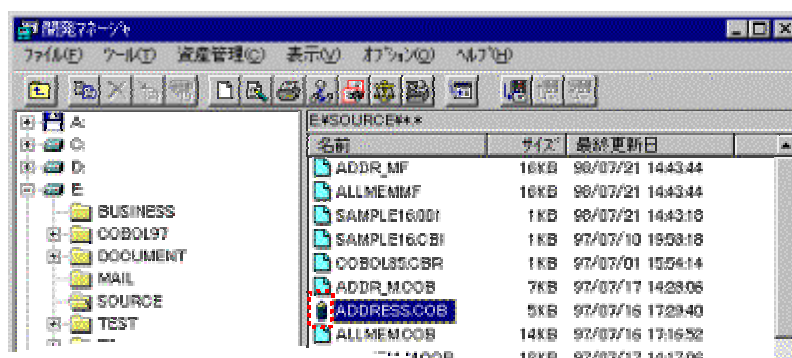


[OK] ボタンをクリックすると、チェックアウト操作が開始されます。

2. ファイルがワークスペース上に取り出されます。

ファイルのアイコンがチェックアウトされていることを示す  : 鉛

筆"に変更されて、"チェックアウト状態"として管理されます。



以上でチェックアウト操作は終了です。

### フォルダを選択すると

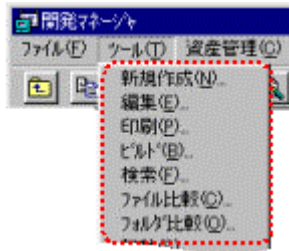
[開発マネージャ]ウィンドウのツリービューから、ワークスペース(フォルダ)を選択すると、選択したフォルダ配下のすべてのファイルがチェックアウトの対象になります。

## 2.6 修正・コンパイルなどの開発作業

ワークスペースにチェックアウトされた資産は、エディタなどのツールを使用して修正できる状態で取り出されています。このワークスペースを利用して直接開発作業を行うことができます。






### 開発作業を効率良く行うための開発支援ツール


PowerGEM Plusでは、開発作業の各場面で有効に利用できる"**開発支援ツール**"を提供しています。



PowerGEM Plusが開発支援ツールとして提供している、ツールの一覧を以下に示します。

表：開発支援ツールの一覧

ツール	コマンド	概 要
 エディタ	新規作成	高度の編集機能を持つはん用のテキストエディタです。 主に、プログラムテキストの入力、表示に使用するツールです。
	編集	
 印刷	印刷	Windows(R)環境上のファイルを、プリンタに出力するツールです。
 ビルダ	ビルド	実行可能プログラムを作成するツールです。 メイクファイルに従ってソースファイルのコンパイル、リンクを行います。
 検索	検索	任意の文字列を含む“ファイル”を、検索するツールです。
 ファイル比較	ファイル比較	テキストファイルの内容比較して、ファイル間の相違点を行単位に表示するツールです。

ツール	コマンド	概 要
 フォルダ 比較	フォルダ比較	フォルダを比較して、フォルダ間のファイルの相違点を一覧表示するツールです。



## 2.7 チェックイン


チェックアウトして修正した資産の修正結果をGEMライブラリ上の資産に反映します。この操作を"チェックイン"と称します。なお、GEMライブラリ上の資産には、資産の修正された箇所だけが反映されます。


ここでは、特定のファイルを選択してチェックインする手順について説明します。

1. [開発マネージャ]ウィンドウのリストビューで、ワークスペースからチェックインするファイル(例：E:\\$SOURCE\ADDRESS.COB)を選びます。[資産管理]メニューの[チェックイン]コマンドを選択します。



2. ファイルの修正された箇所がGEMライブラリ上の資産に反映されます。

チェックインが完了すると、ファイルのアイコンが  : 鉛筆 から

 : 水色 に変更されます。

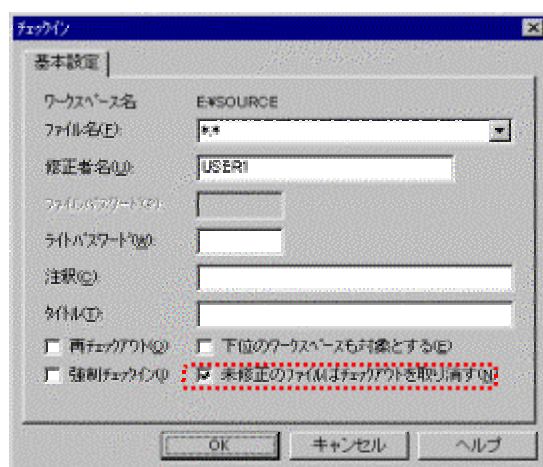
### フォルダを選択すると

[開発マネージャ]ウィンドウのツリービューでワークスペース(フォルダ)を選択すると、選択したフォルダ配下のチェックアウトしているすべてのファイルがチェックインされます。



**ポイント** 修正していない資産がある場合は

開発マネージャの[オプション]メニューの"実行時オプション指定"をチェックして、[チェックイン]コマンドを選択します。表示された[チェックイン]ダイアログボックスで"未修正のファイルはチェックアウトを取り消す"をチェックして、[OK]ボタンをクリックします。



チェックアウトしてワークスペース上で修正されているファイルだけがチェックインされ、修正されていないファイルの"チェックアウト状態"が取り消されます。

---

## 付録A ファーストステップウィザード

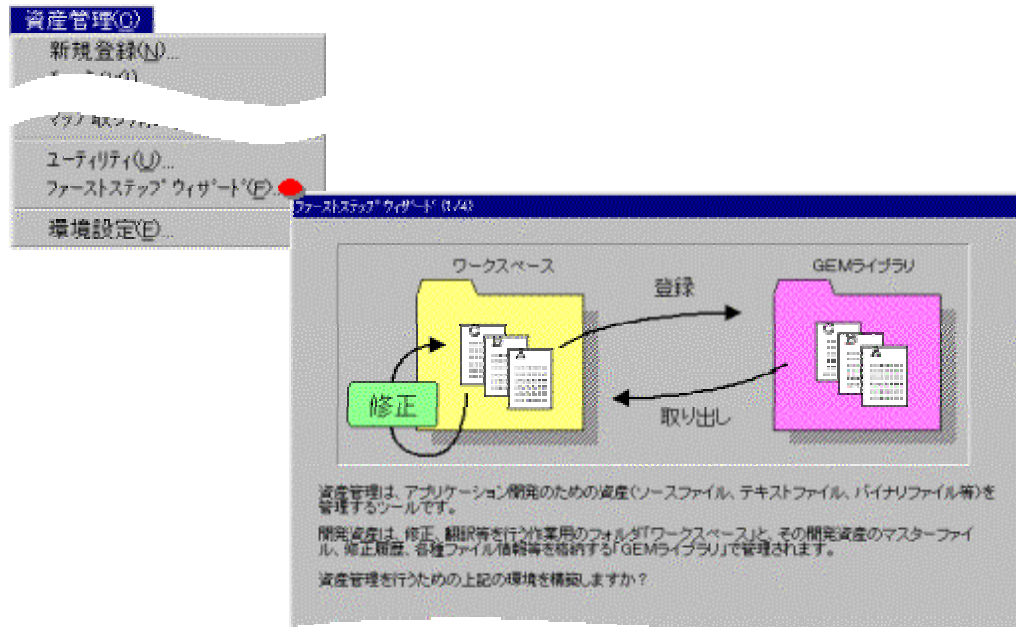
---

[資産管理]メニューの[ファーストステップウィザード]コマンドを利用すると、ワンタッチで資産管理を適用した開発環境を構築できます。

## A.1 ファーストステップウィザードを利用する

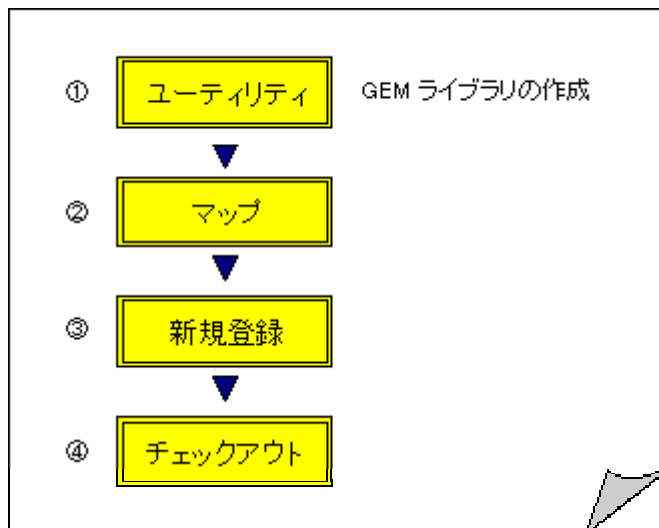
ファーストステップウィザードでは、以下の環境を構築します。

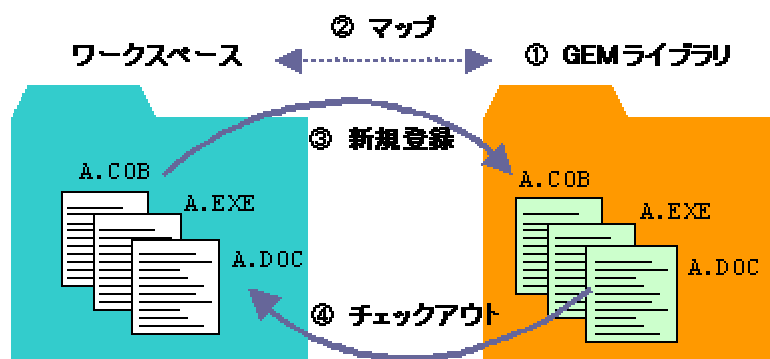
- 新規にGEMライブラリを作成して、ワークスペースから資産を登録する
- 既存のGEMライブラリからワークスペースへ資産を取り出す



以下に、構築する各環境の概要を示します。

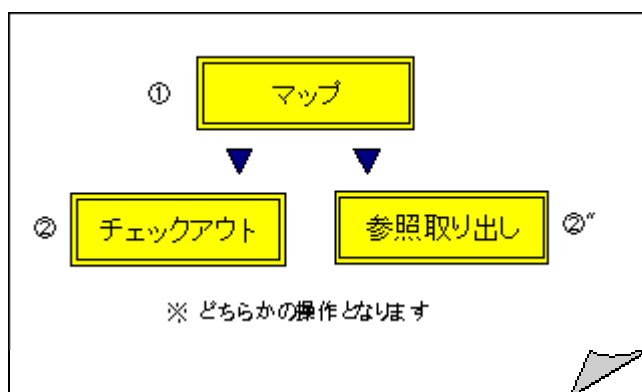
- 新規にGEMライブラリを作成して、ワークスペースから資産を登録する
- この環境の構築では、以下のステップを一括してウィザードで行います。





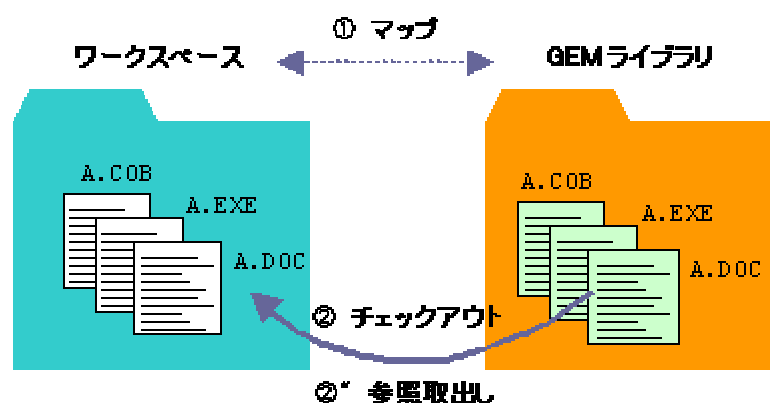
### 既存のGEMライブラリからワークスペースへ資産を取り出す

この環境の構築では、以下のステップを一括してウィザードで行います。



**ヒント** [参照取り出し]コマンドは

資産を"読み込み専用"の属性でワークスペースに取り出します。例えば、最新の資産を取り出してコンパイルする場合などに選びます。



---

# 用語集

## エディタ

PowerGEM Plusが提供するツールのうちの1つです。テキストファイルの作成や更新を、効率良く行う編集ツールです。

## 開発マネージャ

PowerGEM Plusを立ち上げると、最初に起動される、PowerGEM Plusの中心となるツールです。開発マネージャが表示する、[開発マネージャ]ウィンドウからすべての操作を行います。

資産管理による資産の操作  
エディタ、ビルダ、印刷などのツールの起動  
ファイルの一覧表示  
ファイルのコピー、移動、削除など

## サーバ連携

資産管理が提供している、グローバルサーバ、ビジネスサーバ、UNIXサーバおよびWindows(R)サーバと連携した分散開発環境を実現するための機能です。

## サーバ連携情報

Windows(R)環境とサーバを接続するために、必要な情報です。サーバ連携情報には、各サーバとの“連携方法”と、ホスト名やユーザ識別名などの詳細な“連携情報”の二種類があります。資産管理の[マップ]コマンドで、サーバ上の資産格納庫との対応付けを行うまでに、サーバ単位に設定します。

## 資産

ソースファイル、ソースプログラムテキスト、画面帳票定義体、文書などのアプリケーション開発のために作成・利用される各種開発資産の総称です。

## 資産格納庫

アプリケーション開発で作成・利用する資産が格納・管理されているライブラリおよびファイルの総称です。資産格納庫とワークスペースを対応付けることにより、資産管理の各コマンドで操作できるようになります。

以下のサーバ上に配置された、ライブラリおよびファイルが資産格納庫として利用できます。

Windows(R)サーバ：GEMライブラリ  
グローバルサーバ(富士通メインフレーム)：GEMライブラリ、区分ファイル、順ファイル  
グローバルサーバ(IBMメインフレーム)：区分ファイル、順ファイル  
ビジネスサーバ(ASP)：GMSライブラリ、EMSライブラリ  
ビジネスサーバ(UNIX)：GEMライブラリ、一般ファイル  
UNIXサーバ：GEMライブラリ、一般ファイル

## 資産管理機能

PowerGEM Plusが提供する、資産管理の中心に位置する機能です。各サーバ上の資産格納庫で管理・格納されている資産を、ワークスペースを経由してWindows(R)環境から一括管理する機能です。

## [資産管理]メニュー

「資産管理」、「ユーティリティ」、「環境設定」の各コマンドが定義されているメニューのことです。本メニューは、開発マネージャのメニューバーに存在します。

## 世代管理

資産の更新履歴を管理して、資産の更新後も更新前の内容を復元できるようにした機能(機構)です。バージョン管理、履歴管理と呼ばれる場合もあります。

GEMライブラリおよびGMSライブラリが、世代管理機構を備えている資産格納庫です。

---

## 属性情報

資産の属性を表す情報です。拡張子単位に定義します。以下に示す情報を、属性情報として管理しています。

- データ形式
- レコード形式
- レコード長
- 順序番号定義

## チェックアウト状態

資産格納庫上の資産が、修正するためにワークスペースに取り出されている状態です。チェックアウト状態の資産は、他のユーザから更新系の操作が行えないように管理されます。[チェックイン]コマンドまたは[チェックアウト取り消し]コマンドが、実行されると、チェックアウト状態は解除されます。

## データ圧縮

特定データ、重複データや規則的に出現するデータを、一定の手順に従って特殊なデータコードに変換して、元のデータを保証してデータ容量を小さくすることです。

## バイナリ形式データ

数値や製品独自のデータなどのバイナリデータで構成されている資産の総称です。

## マップ

資産格納庫とフォルダが対応付けられて、ワークスペースとして定義されている状態のことです。

## メイクファイル

アプリケーションを作成するための資産(ソースファイル、オブジェクトファイル、実行可能プログラムなど)の関係を定義したファイルです。ビルダは、メイクファイルの定義に従って実行可能プログラムを作成します。メイクファイルの作成/更新は、メイクファイルエディタを使用して行うことができます。

## メンバ

GEMライブラリ、GMSライブラリ、EMSライブラリ、区分ファイルまたは一般ファイルに登録されている各種資産の総称名です。

## 読み取り専用

Windows(R)のファイル属性の一つです。書き込み操作が行えないように管理されているファイルです。

## レコード

資産のデータを構成する最小の単位です。バイナリ形式データの場合は、全体が一つのレコードとして扱われます。

## ワークスペース

資産管理の[マップ]コマンドによって、資産格納庫と対応付けられた、Windows(R)環境上の作業環境です。ワークスペースは、フォルダを起点として、資産に対応した複数のワークスペースファイルから構成されます。資産管理では、ワークスペースを経由して、資産格納庫上の資産を操作します。

## ワークスペースファイル

ワークスペースを構成する、Windows(R)環境上の開発作業用の一般ファイルです。資産格納庫のメンバまたはファイルと“1対1”に対応しています。

## GEMライブラリ

Windows(R)環境、グローバルサーバ、UNIXサーバおよびビジネスサーバ(UNIX)の各環境上に作成されている、世代管理機構とデータ圧縮機構を備えた資産格納庫です。GEMライブラリ全体がワークスペース、登録されている個々のメンバがワークスペースファイルとマップされます。

参考：資産管理のユーティリティ機能で、Windows(R)環境およびUNIXサーバ上に、GEMライブラリを作成できます。



---

### **PowerGEM Plus Administrator**

大規模な分散開発環境で、効率的なアプリケーション開発を実現する、管理者向けのソフトウェア構成管理ツールです。PowerGEM Plusを、PowerGEM Plus Administratorのクライアントとして利用した場合には、PowerGEM Plusから構成管理機能を利用できるようになります。

### **UNIXサーバ連携**

Windows(R)環境から、UNIXサーバ上の資産格納庫を利用してUNIXサーバのアプリケーション開発を行う分散開発のことです。

---

# 索引

GEMライブラリ .....	1	チェックアウト状態 .....	11, 13
[GEMライブラリの作成]ボタン .....	5	チェックイン .....	12
印刷 .....	12	[チェックイン]コマンド .....	12
エディタ .....	12	データ圧縮機構 .....	2
開発支援ツール .....	11	バイナリ形式データ .....	10
基本コマンド .....	3	ビルダ .....	12
言語タイプ .....	8, 9	[ファーストステップウィザード]コマンド .....	14
検索 .....	12	ファイル比較 .....	12
サーバ連携 .....	7	フォルダ比較 .....	12
[参照取り出し]コマンド .....	15	保守作業 .....	3
資産管理ツール .....	1	マップ .....	6
実行時オプション指定 .....	8, 13	[マップ]コマンド .....	6
所有者名 .....	8	ユーティリティコマンド .....	5
[新規登録]コマンド .....	8	読み込み専用 .....	15
世代管理機構 .....	2	ライブラリ名 .....	6
チェックアウト .....	10	ローカル .....	6, 7
[チェックアウト]コマンド .....	10	ワークスペース .....	2, 6